

# 巻 頭 言

九州地区大学体育連合前会長 根 上 優

この6年あまり、私たち九州地区大学体育連合は、授業研究を通して所謂「大学体育」の〈在るべき姿〉を模索してきた。途中、社会における大学の位置の変化から「地域貢献」が私たちの役割を語る重要なキーワードとして取り上げられることもあったが、授業研究だけは、連合設立の理念に関わる課題であるとの認識から、首尾一貫して私たちの研究の視野の外に置かれるようなことはなかった。その研究成果は、毎年3月に開催される春期研修会におけるシンポジウムと一般研究発表、さらには機関誌『体育・スポーツ教育研究』の発行を通じて公開されてきた。ここで、今後の授業研究の方向を探るためにもその活動の歩みを簡単に振り返ってみたい。

まず始めに、私たちの授業研究は「教育と研究の融合」の下に「魅力ある授業とは何か」を問うことから出発した。それは必ずしも「魅力ある教材」の開発として結実したわけではないが、学生を体育の授業へと包絡する「呪術的力」を備えた教材の開発は、学生による授業評価の制度化の流れと相俟って、まさに焦眉の急となっていた。勿論そこには、私たちの授業が惰性に陥っているとの自己反省があったことは間違いないが、それ以上に重要なこととして、90年代からの所謂「楽しい体育」と「選択性」の恩恵を受けた学生に対する私たちの向き合う姿勢に大きな変化があったことは疑いない。すなわち、「楽しさ」「面白さ」こそが唯一、学生の授業への主体的な参加を引き出し、体育授業の評価と地位を高めるとの認識の転換があったのである。しかしながら、授業の一要素でしかないはずの「楽しさ」を全体化し、「教えること」を「教え込み」として拒否する「理想化」のイデオロギーは結局、教えるべき「価値」を切り離された「魅力ある教材」それ自体「虚構の産物」として既にリアリティを喪失しているばかりか、体育の授業を不当に狭く捉えるという結果を招くことに、早晚、私たちは気づくことになる。

こうして次なる新たな研究課題として浮かび上がったのが、体育授業における「魅力」と「価値」の融合である。言い換えれば「おもしろくて、ためになる」授業の追求がそれである。長い間、私たちは「価値の創出」こそ教育の真の目的であることを信じて疑わなかったが、自ら主体的に学ぶことを放棄し、文化の発展に寄与しない「大衆人」としての学生を現前にして、いくら「価値ある授業」を追求しても彼らの興味関心を引き出すことができないことを嫌というほど思い知らされてきた。ここに「教育と研究の融合」という原点に立ち帰って、学問的研究をベースにして「魅力」と「価値」の両方を備えた「おもしろくて、ためになる」授業を創出することこそ、私たちに期待された最も重要な研究課題であるとの共通認識が生まれてきたのである。勿論、そのためには「専門こそ最高の教養である」との信念に従って教材を開発し、絶えず新たな授業を創造する努力をかさねることが必要不可欠である。現在、科研費の取得を通じて組織的に進められている共同研究「大学生の心身の健康問題に対処しうる独創的体育プログラム開発」などは、そうした信念に基づく取り組みが結実したものであり、今後ますます、この方向性は強くなるだろう。

さて、体育授業への「理想化」のイデオロギーの介入が教えたものは、単に「教えること」の拒否や授業それ自体の矮小化に止まらない。むしろ、そうしたイデオロギーの根底に流れる「人間中心主義」の思想がもたらす精神世界の変容こそ、今後ますます重要な研究課題となるはずである。その意味では今、そうした思想の限界を乗り越えるエコロジカルな視点からの授業モデルの創造と、それを実践に移したときに遭遇するはずの倫理的・道徳的批判に耐えるだけの強固な理論の構築が待たれるのである。

# 目 次

巻 頭 言 .....	根上 優 (九州地区大学体育連合前会長)	1
I. 教育研究論文		
1. 原著論文	体育実技における準備運動の活用がSAQ関連体力に及ぼす影響について .....	5
	角南 良幸 (福岡女学院大学)	
	村上 清英 (福岡女学院大学非常勤講師)	
	大隈 節子 (三重大学)	
	中山 正剛 (大原保育医療福祉専門学校)	
2. 研究資料	歩数計によるセルフモニタリングを利用した大学体育授業における 身体活動量の変化について .....	14
	田原 亮二 (福岡大学スポーツ科学部)	
	中山 正剛 (大原保育医療福祉専門学校)	
	神野 賢治 (金沢星稜大学人間科学部)	
	丸井 一誠 (福岡大学スポーツ科学部非常勤講師)	
	村上 郁磨 (久留米大学)	
3. 実践研究	スポーツ健康福祉学科学学生を対象とした専門実技科目における 健康情報提供が健康度・生活習慣に与える影響 .....	23
	正野 知基 (九州保健福祉大学)	
II. 体育・スポーツ教育		
1. 提 言	2008年夏のつれづれに .....	31
	市川 孝夫 (九州地区大学体育連合顧問)	
2. 特別講義	健康習慣を促す行動変容教育 ― 将来への持ち越し効果を期待して ― 健康行動変容：継続を導く仕掛け作りと動機づけ ― .....	32
	竹中 晃二 (早稲田大学)	
3. 招待講演	Physical Education and Physical Activity Programs and Opportunities at Penn State University .....	34
	Philip E. Martin, Ph.D. (Department of Kinesiology Penn State University University)	
4. シンポジウム		
1) シンポジウムを振り返って .....	根上 優 (宮崎大学教育文化学部)	37
2) 競技スポーツを取り巻く社会環境について .....	山本 教人 (九州大学)	40
3) 近年の学生気質と競技スポーツ参加 .....	森 司朗 (鹿屋体育大学)	42
4) 大学運動部と体育教員の役割 .....	小林 勝法 (文教大学)	45
5. 研究発表		
1) 大学運動部 (大学スポーツ) からカレッジスポーツへ .....	森 正明 (中央大学)	47
2) 体育実技に関する学生の意識調査 .....	山崎先也, 松原秀治, 徳永幹雄 (福岡医療福祉大学)	49

3) 大学体育の役割に関する一考察 ~運動継続要因と体育実技に対する要望からの検討~	丸井 一誠 (福岡大学スポーツ科学部非常勤講師)	
.....	田原 亮二 (福岡大学スポーツ科学部)	
	中山 正剛 (九州大学大学院)	
	神野 賢治 (金沢星稜大学)	
	村上 郁磨 (久留米大学)	52
4) 講義や実習に生かしたい体力測定結果	飯干 明 (鹿児島大学)	54
5) 大学体育授業における行動介入の効果 ~量的・質的分析を用いた評価~	中山 正剛 (大原保育医療福祉専門学校)	
.....	田原 亮二 (福岡大学スポーツ科学部)	
	神野 賢治 (金沢星稜大学人間科学部)	
	丸井 一誠 (福岡大学スポーツ科学部非常勤講師)	
	村上 郁磨 (久留米大学)	57
<b>Ⅲ. 体育・スポーツ事情</b>		
1. 海外だより — 留学生活の報告 — 美食の国から —	右田 孝志 (久留米大学)	61
2. 大学めぐり — 西日本短期大学 —	手嶋 孝司 (西日本短期大学)	64
3. 九州地区大学体育連合研修会		
1) 「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」春期研修会の概要		66
2) 平成19年度 春期 体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議に参加して	内田 若希 (福岡県立大学)	67
.....		
3) 春期研修会を終えて	郡 弘文 (日本文理大学)	69
<b>Ⅳ. 事務局報告</b>		
平成19年度 事業報告		71
平成19年度 収支決算書		77
平成20年度 予算・補正予算		78
平成20年度 事業計画		79
「体育・スポーツ教育研究」の投稿原稿募集について		80
九州地区大学体育連合研究助成規定・研究助成施行細則		81
九州地区大学体育連合規約		82
九州地区大学体育連合役員名簿		83
九州地区大学体育連合加盟大学		85
平成19年度 賛助会員一覧		87
平成20年度 賛助会員一覧		87